

# 商 況

(日本製鐵販賣旬報第140~141號より抜萃)

## 目 次

昭和14年2月中下旬鐵鋼關係日誌  
1938年の世界鐵鋼業の情勢(2)  
海外鐵鋼情報

棒鋼共同販賣組合第2部使用マーク  
東京大阪市中鐵鋼相場表  
昭和14年2月中發表各種鋼材建値表

### 昭和14年2月中下旬鐵鋼關係日誌

10日 昭和13年12月日中の内外卸賣物價指數は次の如し。

日 本	141.7	(前月 141.0)
滿 洲 國	156.3	( " 156.1)
英 國	109.9	( " 108.5)
米 國	116.7	( " 117.3)
佛 國	但 11月 169.6	(10月 163.6)

○今週の英國鐵鋼市場は國際政局の見直しを急速に反映して過去1週間の引合は増大し、薄板製造業は既に全能力の操業を行てをりその受註は數ヶ月先の先物に及んでゐる。尤も造船業及び建築業は引續き不振であるが、構造用鋼材は主として軍需關係の需要見直しを反映してゐると。

○U.S スチール會社1月中の鋼材引渡高は789,000tで前月に比し95,000tの増加である。

○米國鐵鋼協會發表。1月中の米國銑鐵生産高は2,175,000t(前月2,202,000)同鋼3,187,000t(3,143,000)。

○去る6日開催された棒鋼、形鋼共販理事會では4,5月積販賣値段は前月通り据置と決定した。

尙 200mm 等邊山形鋼は從來大山不等邊の3圓高なりし處今回の建値變更の結果却て2圓安となりたる爲198圓と改むる事になり、共販は4,5月積より、問屋は4月販賣のものより實施する事となつた。

○去る7日開催された鋼板共販理事會では大谷製鋼所及び東邦鋼業株式會社の新規加入を承認した。

大和製鋼株式會社では從來の特定指定販賣人たる三井、三菱、日本鋼材に新に岩井、安宅を追加する事となつた。

3,4月積販賣値段は据置と決定した。

指定寸法並に中間寸法エキストラについて左の通り決定した。

指定寸法

3.2, 4, 5, 6, 8, 9, 12, 16, 19, 22, 25 mm

中間寸法のエキストラ

3mm 超 6mm 未滿は最も近き寸法の10圓増

6mm 超の中間寸法は各ベース値段の5圓増

25mm 超の定尺は切板として取扱ふ。

○8日に開催されし線材共販理事會は3,4月渡線材の販賣値段は据置と發表す。

○鐵力共販は去る9日理事會を開催し3月積建値は置据と發表した。

12日 我軍は蘭州を空爆し敵戰闘機18、飛行場で30機を爆撃す。

○アイルランド共和國政府はスペインのフランコ政權の正式承認を發表す。

13日 衆議院本會議に於て昭和14年度歳入歳出總豫算案並に14年度各特別會計歳入歳出豫算案は原案通り可決す。

○我方は海口海關を接收した。

○獨伊通商協定の調印を了す。新協定は獨逸のオーストリア及びブデーン地方の領土併合による新情勢に對處せんとするものである。

○佛政府はアンリー駐日佛大使をして我海南島占領に對し占領の目的、期間及び性質について申入をなしたので我方は軍事的必要に基くものにして領土的野心なしと説明した。

14日 我軍は海南島最南端の榆林を占領す。

○佛國政府は國務會議の結果フランコ政權を承認する事に決定した。

○駐日英大使は我海南島占領に關し前日佛國がなせしと同様の申入をなしたるにより我方は同様に答ふ。

15日 英國政府は閣議の結果、今後適當なる時期にフランコ政府を承認する事に決定したと。

16日 ルーズヴェルト米大統領が軍の反對を押切つて佛國へ航空機を賣却した問題が機密漏洩の理由により議會に於て紛糾す。

17日 本月の小賣物價指數は214.1と前月に比し1分4厘方の騰貴を示した。調査品100中騰貴21品、低落8品、保合71品。

○1月の全國生計費指數(大正3年7月を基準)は211.9で前月に比較して0.1%の續騰であつた。(因に日支事變前たる昭和12年6月は192.4)

○グ駐日米大使は我海南島占領に關し米國が一般的利害關係を有するの理由により我方の占領目的を質す意味の申入をなした。

○商工省は告示第30號を以て鐵鋼配給統制規則第2條の規定により新に8團體を指定す。(詳細は本旬報表紙裏参照)

19日 最近上海共同租界及フランス租界に於てテロ行為頻發し遂に陳維新政府外交部長の遭難を見るに至る。

20日 1月中の内外卸賣物價指數對照は次の如し。

日 本	143.9	前月比較	増2.2
滿 洲 國	161.4	同	増5.1
英 國	109.0	同	減0.9
米 國	116.4	同	減0.3
佛 國(但12月)	170.1	同	増0.5

○國際鐵鋼カルテルでは米國品の競争對策、チエツコ及びポーランドの國境の變化に基く同國の割當變更及スペインに於けるフランコ政權の勝利に伴ふ同國の鋼生産の復活に關する對策等に就て検討された。

○米國今週の製鋼作業率は全能力の53.7%と見積られ前週

より 11% の減少であつた。

20日 1月13日及び去る8日に開催された薄板共販理事會では左の事項が決定された。

従来の常務委員なる名稱を常務理事と改稱した。

先物賣出申込徴収方法を2ヶ月限月とし民需割當分は賣出理事會前に豫め寸法を申込みことと改め3月積以降實施す。

2月積賣出値段は据置と決定した。

指定販賣人の取扱比率に就ては定期契約増加に依り之が改正の必要を認め常務理事會に於て原案を作製し2月積より實施する事となつた。

ドラム罐用薄板の寸法は200立入ドラム罐サイズ幅26吋長52吋又は73吋を標準とし下の如く取極められた。

(イ) 標準サイズ寸法エキストラ 10圓。燈鈍エキストラ 5圓。

(ロ) 特殊サイズ寸法エキストラは20圓以内とし其の都度組合に於て決定す。燒鈍エキストラは同じく5圓

3,4月積出値段は据置と決定した。

○我陸軍航空部隊は數十機の大編隊群をもつて敵西北空軍大根據地たる蘭州を襲ひ、敵戦闘機36機を撃墜し更に地上軍事施設に殲滅的打撃を與へた。

21日 海軍封鎖部隊の一部は浙江省北部の海港海門の閉塞作業を完了す。

○鋼網共同販賣組合臨時總會では大阪製鋼株式會社が第2大阪製鋼所を合併する事を條件として加入を承認す。

22日 東郷ソ大使は日ソ漁業條約問題に關しトヴィノフ外務人民委員を訪問し會談を續行する事となりたる模様。

○上海租界では本日又復3ヶ所に抗日テロ事件勃發す。右事件に鑑み我陸海外の關係當局は上海共同租界工務局に對する要求の根本方針を決定して上海總領事宛に重要訓電を發した。

23日 米國鐵鋼界では最近薄板類の値上げ機運強く本日普通亞鉛鍍板に對し當2弗方値上げした。

○獨逸鐵鋼協會發表1月中の獨逸鐵鋼生産高は銑鐵1,633,000t(前月1,596,000), 鋼2,096,000t(前月2,944,000)。

○米國一級屑鐵相場場はピッツバーク消費者渡(當)15弗50仙~16弗(据置), 同輸出向紐育躰渡12弗~12弗50仙(据置) レール屑輸出向ボストン貨車渡14弗(前週13弗50仙~14弗)

○佛政府價格取締委員會は最近銑鐵の賣値を當22法50方引上げを許可したが銑鐵製造業者はこの程度の引上げては不充分なりと強硬な抗議を申込んだと。

2月爲替相場

中 旬			下 旬		
區分	對 英	對 米	區分	對 英	對 米
2. 11	1/2	27~5/8	2. 21	1/2	27~5/8
13	"	"	22	"	"
14	"	"	23	"	"
15	"	"	24	"	"
16	"	"	25	"	"
17	"	"	27	"	"
18	"	"	28	"	27~3/8
20	"	"			

○米國議會下院では海軍根據地擴充案の中グアム島防備條項削除を正式可決す。

24日 滿洲國の日獨伊防共協定加盟議定書調印式は新京で行はる。此日ブダペストに於てもハンガリーの防共協定參加の調印を了る。

28日 歐洲鋼管カルテルは前週パリに會合しドイツのズデーテン接收による障解決に成功したと。

○最近のドイツ鐵鋼市場は國際鐵鋼市場の稍々回復の後を受けて再び不振を呈するに至た。而して先週各種鋼材について内々値引が行はれた形跡があるが、之は國際鐵鋼カルテル共同委員會等によつて割當を決定されてゐないポーランド及チエツコの競争が原因してゐるものであると考へられてゐる。尙來る3月8,9兩日に國際カルテル執行委員會及び國際軌條カルテルをルクセンブルグに於て會合する筈であると。

○米國商務省發表による1月中對日鐵鋼輸出高は黑板92,000封度。ブリキ5,000封度。

○今週の米國製鋼作業率は全能力の55.8%と見積られ、前週より2.1%の増加である。USスチール株62弗8分7。

○我方は上海租界工務局の回答に接し尙不滿の點あるも原則的に承認することに決す。

1938年の世界鐵鋼業の情勢(2)

フランス 1938年のフランス鐵鋼業界は甚だしく不利な事情にあつた。其の原因は數多くあつたが、就中、1937年に制定された種々の社會立法が其の實施に際して多くの障得に逢着した事、産業の發展の爲め資本を得ることの困難であつた事、通貨の不安定、一般經費特に社會的負擔の増大、國內に於ける取引の一般的減退等が其の主なものであつた。之等の要因は相摺り製鐵會社の操業を減退させ、或る場合には完全に停止させ、その結果は失業の増大を惹起するに至た。

更に直接的に製鐵業に打撃を與へたのは、老大な公共事業計畫の縮減であつた。建築費の著騰に起因する建築業の不振も亦可成りの影響を與へた。パリ地方に於ては大きなアパートメントや事務所用ビルディングの建築は事實上完全に停止されてゐた。又労働者住宅の建築計畫が實行されてゐたのは、2,3の工業地帯だけであつた。

國內に於ては、一般に内外の政治情勢の不安定の爲に、買付の刺戟は少かつた。輸出取引に就て云へば、フランの減價が有利な影響を與へたことは事實であるが、然しそれに續いて直ちに原價の昂騰が起た爲に、此の有利な地位も一時にして消滅した。即ち工業生産物の原價指數は1937年12月31日の591から1938年11月初頭には672に上り、又鑛石及び金屬の指數は右の時期に663から801に上つた。然し一方生計費はたいして昂騰しなかつた。さう云ふ事情であつたから、労働者が勞賃の値上げを要求する理由は殆んどない譯であるのに、事實は産業界は罷業の爲に攪亂された。これ等の罷業は主として政治的な性質のものであつた。又或る場合には労働者の解雇を口實として起こされたものもあつた。

多くの場合労働者自身は罷業を歡んでゐなかつたやうである。無記名投票が行はれた場合には、復業を希望するものが多數であつた。此のやうな罷業によつて過去2年間に互つて産業が攪亂されたので此の罷業といふ武器に制限を加へ事業經營に防禦の手段を與へる爲に、年末來立法的な手段が考慮されてゐた。然し反面に於て、労働者の權利を擁護する爲の手段も之と競争的に行はれた。9月に於け

第1表 共販統制品生産高表  
1938年1月~7月(單位 1,000t)

	國內向			輸出向			合計
	國內向	輸出向	合計	國內向	輸出向	合計	
半製品	312	101	413	軌條	144	27	171
構造用形鋼	115	71	186	厚、中板	141	15	156
マーチャント・バー	476	70	546	薄板	69	3	72

第2表 主要共販受註高表(單位 t)

半製品	1936	1937	1938, 1-3	1938	1938	1938
	(月平均)	(月平均)	(月平均)	7月	8月	9月
國內向	19,400	26,000	15,450	13,700	13,000	17,200
輸出向	29,200	29,800	14,125	12,700	13,250	14,600
合計	48,600	55,300	29,575	26,400	26,250	31,800
構造用形鋼						
國內向	20,550	15,500	12,600	9,950	9,800	11,100
輸出向	16,450	11,600	8,100	9,900	10,600	15,200
合計	37,000	27,100	20,700	19,850	20,400	26,300
マーチャント・バー						
國內向	77,500	71,400	48,500	51,250	52,350	59,500
輸出向	20,550	18,800	8,800	14,800	16,900	24,800
合計	98,050	90,200	57,300	66,050	69,250	84,300

るヨーロッパの危機によつて惹き起こされた取引の停頓に續いて、年末頃になつて、フランスの財政は危機に遭ひ、生産は不振に陥た。此の情勢を切り抜ける爲に、グラデーエ首相は強力な手段を畫策した。それはフランスをノーマルな生産水準に復する爲に、主として労働時間の延長と主要産業の再編制なる手段による事とし、その爲に議會から全權を與へられることを要求するものであつた。年末に到るまでに既に政府は、炭鑛業の生産を刺戟し大量の石炭の輸入を減少させる爲に、石炭鑛業に於ける労働時間を延長することに成功した。

昨年中フランス鐵鋼業に於ては、國內市場の買付減退を埋め合はせる爲に、輸出取引の發展を圖り、特にフランの減價によるフランス製品の價格下落を利用して他國品と競争しようとした。然しながら此の手段は餘り成功しなかつたといふのは、フランスは國際カルテルによつて割當てられたt數を超えて賣ることは許されなかつたからである。事實、半製品、構造用鋼材及びマーチャント・バーの輸出は1937年よりも減少したのであつた。此の情勢は9月の終り頃になつて漸く改善に向たやうな状態であつた。

主な輸出市場はスカンジナビア、フィンランド及びオランダであつた。これ等は特に壓延鋼材の市場として有力なものであつた。アルゼンチンも亦昨年中を通じて重要な買手であつた。然し印度及び南アフリカの買付は間歇的であつた。大抵の海外市場に於て、フランスはアメリカの競争に遭遇した。而して現在輸出價格及び輸

出市場に關する何等かの協定を結ばうして、アメリカ及びヨーロッパの鐵鋼業のメーカー間に行はれてゐる協商に對して、相當の關心が抱かれてゐる。イギリスは半製品の最大の購買國であつた。但し後半期は、イギリスの國內に於ける龐大なストックの蓄積の爲に、イギリス向けの輸出は著しく減少した。

國內市場について云へば、9月の始めまでは取引は概して緩慢であつたが、9月に入つて僅かながら恢復の兆が現はれた。國內市場に於ける著しい特徴は、需要のうち武器及び防禦設備用のものが多いといふ事であつた。此の目的の爲の需要は、主として平爐鋼及び特殊鋼であり、從て鹽基性轉爐鋼の生産はそれだけ減少した。

その爲に、鹽基性轉爐鋼を比較的多量に生産するやうに組織されてゐる製鐵工場に於ては、ノーマルな作業のバランスが破れることとなつた。即ち一部の工場では鹽基性轉爐鋼の註文が少く、その爲に轉爐の一部の作業休止の已む無きに到り、これはガス其の他の副産物の供給を少くした。ところが此のガス及び其の他の副産物は、全工場を通じて利用されて居り、さうして一般的な作業と交渉を有て居るので、此の轉爐の一部の操業休止は全體の作業のバランスを破り、甚だしい不經濟を生ずることになつたわけである。かういふ事情の下で、或る工場は1週間30時間の労働しか行はない事とし、或る工場は一定の期間作業を休止する方法を選んだ。

フランス鐵鋼業の不況は生産數量を見れば判る。即ち1937年の1月から10月までの期間に於ける鋼塊及び鑄鐵の生産數量は、6,554,000t、銑鐵の生産數量は6,549,000tであつたが、これに對して1938年の同期間に於ける右の數字は夫々5,065,000t及び4,970,000tであつた。1938年全體としては鋼の生産は6,000,000tと見積もられるが、これは最高水準に達した1929年の9,700,000tに比較して3,700,000tの減少であつた。

軌條の生産は特に低かつた。フランス鐵道協會は、不況の年に於て通常出してゐた軌條材料の註文高の50%以上には發註をしなかつた。その原因の一部は經費を節減する必要に因るものであり、一部は支線の一部がモーター・コーチに變へられた事に基づくものであつた。建築業の不振の爲に構造用鋼の需要も少かつた。これに反して造船用鋼板の市場は好況であつた。これは海軍の需要増大に因るものである。

第1表はカルテル統制品の最初の七ヶ月間に於ける生産數量を、國內市場向けと輸出市場向けに分けたものである。第2表によつてカルテルの受註數量の變動が知られるが、イギリスの著しい輸入減少に起因する半製品の輸出向け需要の減退は特に著しい。

昨年中種々のシンデケートはよく其の機能を果たした。線材カルテルは存續期間を延長した。1937年末に設立された薄板カルテルは完成され、加盟會社に對する割當は4月に決定された。此のカル

第3表 1938年フランス鐵鋼國內價格表(佛フラン-t當り)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鑄物用銑(Si2.50-3.00)	560	563.50	"	"	598	"	"	"	"	"	"	"
熔鑄爐用コークス	189	"	205	"	"	"	"	"	"	"	220	225
ピツト	840	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
軌條	1,150	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
マーチャント・バー	1,080	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
形鋼	1,055	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
厚板(5mm)	1,350	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
中板(2mm)	1,565	"	"	"	1,575	1,600	"	"	"	"	"	"
亜鉛鍍板(0.6mm波板)	2,250	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
鐵線	1,660	"	"	"	"	"	"	1,650	"	"	"	"
フープ及バンド	1,210	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

テルは國內販賣及び輸出販賣の兩方を統制するものであるが、限られた数の会社のみが輸出割當を有てゐるに過ぎない、此のカルテルの將來については幾分の不安がある、といふのは一加盟會社は1938年12月31日までしか加盟を保證してゐないからである。

線製品カルテルは約18ヶ月しか延長されてゐなかつたが、1938年6月に再び更新された、此のカルテルは事實上殆んど總べてのメーカーを包括してゐる、さうしてアウトサイダーとして殘てゐる2,3のメーカーは不利な條件を忍ばねはならなかつた、これ等の種々のカルテルはフランス鐵鋼聯盟の統制の下に活動した。

取引が緩漫になつた爲に、引渡しはさほど延期されなかつた、メーカーは通常よく期日を守た、價格は實際上昨年中は殆んど安定してゐた、それは價格統制委員會の政策に基づくもので、1938年6月に政府によつて定められ一切の價格引上を認めずとする條件に従たのである、唯一の價格の變更は生産税が5と8%から8・70%に引上げられた事に起因するものであつた、たゞ銑鐵の價格は年初の554フランから598フランに引上げられた、新價格は5月の初めから適用されることとなつた。

フランス鐵鋼業は1938年中の大部分を通じて甚だしい不況に苦しめられたが、年末近くなつてから幾分恢復の兆が現れ、もし重大な政治不安がこれ以上起こらなければ、生産は恢復するかも知れないと云ふ希望が抱かれるに到た、一方國家財政の状態は依然として危機に頻して居り、年末が近づくと共に何等かの解決を迫てゐる。

**ベルギー及びルクセンブルグ** ベルギーやルクセンブルグのやうに其の鐵鋼業が主として輸出取引に依存してゐる國にとつては、1938年は國際取引に數多の障礙が生じ甚だ困難な年であつた、或る種の國は益々自給自足を進めて居り、これが國際貿易の障礙となつた事は云ふまでもないが、これに加ふるに、スペインの内亂の繼續及び支那の動亂が亦甚だ好ましからぬ影響を與へた、そればかりでなく、就中ドイツのオーストリア併合及び9月に於て戦争の一手前まで押し詰められた歐洲政局の危機が、更に之に加はつた。

すべて斯ういふやうな状態は國際取引を妨害すべし傾向があり、ベルギー及びルクセンブルグの鐵鋼生産に直接の打撃を與へた、然も

ベルギー及びルクセンブルグの鐵鋼業は既に年初來衰退し始めて居り、壓延工場の如きは多く操業短縮を行つてゐたのであつた。

此の生産減少に加へて、ベルギー及びルクセンブルグの鐵鋼業は海外市場に於けるアメリカの競争に悩まされた、その結果歐洲鋼カルテルを通じてアメリカと協定を結び爲に眞剣な努力が爲された、輸出業に對して不利な影響を與へたもう一つの要因は、これまで其の鐵鋼需要の大部分を輸入に依てゐる二三の國が、自國に鐵鋼業を興し始めたといふ事である、此の例として挙げられるものはオランダに新しく製鋼工場及び壓延工場が建設された事、アイルランドに壓延工場が建設せられた事、ルーマニアでは既存設備の増加が行はれた事等である。

これらの總べての要因が一緒になつて、前半期のベルギー及びルクセンブルグの取引量を減少させた、然し7月頃から市場の情勢は幾分の活氣を加へ、さうして此の立直りの傾向は、9月に於ける國際關係の急迫の時期を除いては、事實上年末まで繼續した。

年末に於ける最も不利な事情は、ベルギー及びルクセンブルグの最大の顧客の一であるイギリスが、未だ甚しい需要の恢復を示さないといふ事である、かういふ事情の下で、第1表に挙げられた最初の10ヶ月に於ける生産高の數字が示す通り、鐵鋼生産が可成り減少したのも、驚く可きことではない。

世界の鐵鋼需要の減少と輸出國間の競争の結果として、當然價格は下押し傾向を辿た、或る場合カルテルが公然價格の引下を行つた事もあるが、然し多くの場合尙それ以上の引下が、値引の名目に於て、或は取引條件を有利にすることによつて、大切な契約に對しては行はれた。

此の價格の下落傾向は、輸出價格と同じく國內價格に就ても見受けられる、1938年の始めには約800ベルギー・フランであつた鑄物用銑の建値は、年末には500フランに落ちた、第2表は此の國內價格の推移を表し、第3表は輸出價格の變動の範圍を示してゐる、これによつて價格の下落が相當甚だしかつた事が知れよう。

ヨーロッパ鋼カルテル及び其の所屬のカルテルは、輸出取引を統制するものであるから、從て其の活動は、ベルギーやルクセンブルグ等の輸出國にとつては、少からざる重要性を有てゐる、カルテ

第1表 1938年ベルギー、ルクセンブルグ鐵鋼生産及び輸出入表 (單位1,000t)

	石炭	生産				輸入 (ベルギー及 ルクセンブルグ)		輸出 (ベルギー及 ルクセンブルグ)	
		ベルギー		ルクセンブルグ		銑鐵	鋼*	銑鐵	鋼*
		銑鐵及 合金鐵	鋼塊及 鑄鐵	銑鐵及 合金鐵	鋼塊及 鑄鐵				
1913 (月平均)	294	207	206	212	98	480**	260**	14**	130**
1935 (月平均)	370	252	252	156	153	170	132	3.5	298
1936 (月平均)	378	263	265	163	166	23.3	19.1	5.2	303
1937 (月平均)	489	320	322	209	209	25.7	19.7	4.1	352
1938									
1 月	489	260	229	114	132	11.9	7.7	7.0	254
2 月	424	207	181	117	111	8.6	6.9	5.2	194
3 月	429	193	175	113	109	7.8	8.2	15.1	189
4 月	373	174	160	114	109	8.2	7.9	5.8	151
5 月	367	177	162	115	111	8.7	8.5	3.8	169
6 月	362	192	180	113	110	6.7	6.1	6.1	155
7 月	372	199	185	118	110	9.4	7.8	14.7	170
8 月	563	196	182	117	113	8.9	6.6	14.1	172
9 月	356	197	187	119	117	9.7	6.3	16.4	176
10 月	384	216	207	149	132	—	—	—	—
月平均	392	201	185	122	115	8.9	7.3	9.8	181

\* 鑄鐵及びスクラップを含む

\*\* ルクセンブルグは含まず

第2表 1938年ベルギー鐵鋼國內價格表 (白フラン-*t*當り)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鑄物用銑 (Si 2.50-3.00)	730	705	620	580	540	465	440	〃	450	490	500	〃
熔鑄爐用コークス	215	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ビレット	960	〃	〃	860	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
軌條	1,375	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
マーチャント・バー	1,100	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
形鋼	1,100	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
厚板 (5mm)	1,375	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
薄板 (3mm)	1,575	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
亜鉛鍍板 (0.5mm 波板)	2,950	〃	〃	〃	〃	〃	2,750	〃	〃	〃	〃	〃
鐵線	1,650	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
フープ及バンド	1,550	〃	1,500	1,300	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

第3表 輸出價格變動表  
(fob アントワープ, 金磅-*t*)

ビレット (3~4 吋)	£ 3-12-6 ~ £ 5-17-6
マーチャント・バー	4-10-0 ~ 5-5-0
線材	4-15-0 ~ 6-2-0
薄板 (B. G. 24)	7-2-6 ~ 7-15-0
構造用形鋼	4-10-0 ~ 5-6-6
フープ及バンド	5-5-0 ~ 6-10-0
厚中板	5-2-6 ~ 6-2-6
亜鉛鍍板 (B.G. 24, 波板)	8-10-0 ~ 9-10-0

ルは價格があまり急速に下落することは少からざる重要性を有てゐる。カルテルは價格があまり急速に下落することを防がうと努めたが、値引を全然防止する事は出来なかつた。特にカルテルに對し尙幾分の獨立性を有てゐる壓延業者や販賣業者による値引を防ぐことは困難だつた。それにしてもカルテルは可成り活動した。さうして6月には其の存続期間を1940年12月31日まで延長した。此の更新はさう容易に決定されたわけではなかつた。といふのは若干の割當が減少されねばならなかつたからである。

イギリス鐵鋼聯盟とカルテルとの協定も亦繼續されることとなつた。又昨年中に於けるカルテルの重要性な仕事の一つとして、アメリカ鐵鋼業の主要な代表者との協商がある。さうして此の目的の爲にパリ、ニューヨーク、ロンドン其他に於て會合が開かれたのであつた。此の度々の協商の結果暫定的な協定が成立したが、決定的な或は恒久的な結果は得られなかつた。然し年末近くなつて、ヨーロッパのメーカーは、以前ほどアメリカの競争に出逢はなくなつた。それは合衆國の景氣が直立て來た爲に、國內需要が可成り著しい恢復を示して來たことに起因するものであつた。其の他のカルテルの中では、ブリキカルテルが3年間、線材カルテルが1940年末まで、延長されることとなつた。

ベルギーの國內取引については、國防上の武器の需要の増加と生産費引下げの必要との爲に、高級鋼に對する需要が増加した。その結果、若干のベルギーの工場では數個の電氣爐を新設した。又ベルギーに於てもルクセンブルグに於いても、メーカーは其の工場及び設備を近代化することに努力した。

1938年がスランプの年であつた事は次の數字によつて證明される。即ちベルギーに於ては熔鑄爐63のうち、操業中のものは1月1日に47であつたのが、10月31日には36に落ちた。又ベルギー及びルクセンブルグからの、1月乃至9月に於ける、スクラップを除く鐵鋼の輸出高は、1937年の3,066,000*t*から1938年は1,760,000*t*に減じた。

年末頃から一般に情勢は好轉し、生産は恢復する傾向を示した。然し國際政局の不安や、アイルランド、トルコその他の多數の國々

の輸入防遏策等が、依然として不安の原因を残してゐる。又ベルギー及びルクセンブルグの主要な販路の一つである南アメリカ市場に於ては、貨幣的な制限に基づく障礙がある。けれどもメーカーは、之等の市場及び北歐及び極東の市場に於ける彼等の既存勢力を維持しようとして、懸命の努力をしてゐる。さうして國內のメーカーが協同するばかりでなく、他國の鐵鋼業の代表とも協同することによつて1939年は去年よりも一層有望な情勢を將來するだらうと希望されてゐる。

## 海外鐵鋼情報

## 紐育通信 (1月27日發信)

米國自動車工業と鐵鋼業 米國に於ける自動車工業と鐵鋼業とは不即不難の關聯關係にあるは言を俟たぬ所であるが、年頭に當て昨1938年中に於ける自動車工業の概況を觀察するに、昨年12月公式に發表せられたる處に依れば、昨年中に於ける米國及びカナダの自動車生産量(トラックを含む)は總計2,655,777臺にして、右の内カナダの生産高166,142臺にして總計の6.3%に該當して居る。

然して昨年12月中の生産量407,059臺は11月の生産高に比すれば17,000臺の増加であり、前年12月に比する時は60,000臺の躍進を示して居るが同月は又1938年中のBest Monthであつて、第44半期は同年中を通じての好況を示現し、同期中の生産高1,012,742臺に達したのである。然し乍ら1938年度の1月以降9月迄の生産成績によれば恐らく同年中は僅々2,000,000臺にすぎぬと懸念せられたのであるが、第44半期の好況に依つて漸く前記の成績迄漕ぎ付け得たのである。

次表は過去10年間に於ける各4半期別年産額總計であり、此の10年間の平均年産高は3,430,000臺となつて居るが、昨年は是の平均率に及ばざる事遠く、今年即ち1939年は昨今の好況が續くとしても恐らく此の平均より10%位多くなり得れば上々なりと一般に推測せられて居る。

(Thousand of cars)

	Jan.-Mar.	April-June	July-Sept.	Oct.-Dec.	Total
1929..	1,545	1,867	1,461	747	5,621,715
1930..	1,047	1,263	738	462	3,510,178
1931..	698	941	558	276	2,472,359
1932..	373	538	297	223	1,431,494
1933..	363	666	672	285	1,985,909
1934..	754	1,042	696	377	2,869,963
1935..	1,099	1,231	683	1,107	4,119,811
1936..	1,117	1,478	867	1,155	4,616,274
1937..	1,302	1,615	1,038	1,062	5,016,437
1938..	668	638	337	1,013	2,655,777

自動車製造同業組合は 1938 年度の自動車販賣高を 1,616,000,000 弗と推定、之れに各部分品、附屬品、タイヤ等の合計 980,000,000 弗を加へて總價格 2,596,000,000 弗位には達するものと見て居る。

次に自動車工業と鐵鋼業との關聯關係を検討するために、過去數年間に於て自動車工業の購買した金屬材料は是等鐵鋼製品の全國消費量の何%に該當して居るかを見るに次表の通りである。

	1934年	1935年	1936年	1937年	1938年
鋼 鐵	21.0%	24.8%	20.3%	20.0%	16.0%
銅	18.0	20.0	18.4	16.8	13.0
鉛	38.8	36.8	34.3	31.4	37.0
亜鉛	12.2	16.1	28.0	12.5	9.0
ブリキ	12.2	16.1	11.8	12.0	10.0
アルミニウム	15.0	20.0	13.4	12.7	9.0
ニッケル	29.6	30.5	29.7	28.0	29.0

(1月31日發信) 12月19日通信以後に於ける米國製鋼作業率は次の通りである。

12月19日	51.7%	12月26日	38.8%
1月2日	50.7%	1月9日	51.7%
1月16日	52.7%	1月23日	51.2%
1月30日	52.8%		

昨 1938 年に於ける米國製鋼作業の足取を回顧するに同年中に於ける作業は次の通り

平爐鋼生産高	25,959,041t (40.86%)
ベッセマー鋼生産高	1,880,220t (29.20%)
總計	27,839,261t (39.79%)

即ち昨年中に於ける全生産量は年初に於ける製鋼作業能力の 39.79% を發揮し得たる不過、而も之を各期に分割し見るときは次第第 1.4 半期平均 31.58% 第 2.4 半期平均 30.76% 第 3.4 半期平均 40.79% 第 4.4 半期平均 55.77%

の通りにして上期即ち第 1、及び第 2.4 半期に於ける作業率は僅に 31.17% なりしも下期に入り最高 62.05% (11月の平均) を發揮し、全體的には上述の成績を収め得たる次第なれども、之を前年に比すれば著減たるを免れず既に 1935 年以來の全生産高及び作業率を示せば次の通りである。

年次	全製鋼生産高	製鋼作業率
1935年	33,417,985t	48.54%
1936年	46,807,780t	68.36%
1937年	49,502,907t	72.38%
1938年	27,839,261t	39.79%

然らば本年の豫想は如何にと云ふに見る人によりて千差萬別の觀

察を下して居る事勿論であるが、殊に 1 月に入りて作業率稍低下の足取を示しつゝある原因に就ては、スペインに於けるフランコ將軍の壓倒的勝利と歐洲政局の不安定とによつて株式市場に著しき影響あり、一般實業界方面亦消極的態度にあり、自然鐵鋼原料及び精製品の荷動不活潑なるものありと云はれて居る。更に鐵鋼價格の豫測についても硬軟マチマチの風説あれども E. T. Weir 及 Eugene C. Trace 氏の如く業界を代表する重鎮は口を揃へて悲觀論を強硬に否定して居るが、其理由とする所は要するに昨年下四半期に於ける鐵鋼界の躍進は取りも直さず今年の前途を多望ならしむる證左として居るのみならず、現今の價格制度は近來稀に見るが如きベストコンディションにあるのであつて、例へば、ベスレヘム鐵鋼株式會社に於て第 4.4 半期に純益 3,658,160 弗を擧げ得たるが如きその間の實情を物語るに充分なるものありと指摘して居る。

他面に於て Carnegie Illinois Steel Corporation の最近に於ける屑鐵購入の如きも一般に好感を以て迎へられて居る所であるが、聞く所によれば今回の買付の 17,000t 乃至 18,000t は 15.25~16 弗見當にして、妥當の處と申す事を得べし。

而して鐵鋼製品の鐵道運送状況を見るに昨 1938 年の週平均を超過すること 20,000t に及び、一方鐵道自體は最近 100,000t に達する軌條及び附屬品の大量を各生産者に分割既に發註済なりと云ふ。

繼て造船工業方面を見るに今議會に提案討論中の海軍擴張豫算に關聯し既に 30,000,000 弗を以て約 10 隻の戰艦建造が具體的に計畫せられて居ると云ふ。是等各種の情報を綜合し少くも本年製鋼作業率 50% を降る事はあるまいとは、ベスレヘム・スチール會社社長 Eugene C. Trace 氏が同社株主總會に於て演述してある所であつて、之は本年に於ける最も重要な發表であるとして一般に注目されて居ると共に、他の専門家の間には少くも上半期に於ては製鋼作業率 55% は維持し得るのみならず、場合によつては 60% に達する事もあり得べしとの樂觀説を唱へつゝあり、少くも年間を通じては昨 1938 年より好況を示現すべしと一般に期待せらるゝ所である。

(2月2日發信) 1938 年度米國鐵鋼品輸出に就て 米國商務省鐵山局の發表に依ると 1938 年に於ける屑鐵を除く米國鐵鋼製品の輸出總額は、t 數にして 2,149,184t、此金額 139,667,141 弗であり、之を 1937 年に於ける輸出 t 數 3,475,257t (此金額 222,849,821 弗) に比較する時は僅に同年總輸出額の 62% にすぎない。

然し乍ら 1938 年度の輸出高を、1937 年を除いて 1929 年以來より見るならば、同年の輸出高はこゝ 10 年間に於けるトップを切る

海外鐵鋼相場 (2月18日入電)

	輸 出 向 相 場						國內相場	
	cif 日 本 (t)			河 岸 着 (t)			(t)	
	英	米	大陸	英	米	大陸	英	米
丸, 角, 平鋼	9-19-0	49'056	9-13-9	173'36	182'20	168'86	10- 8-0	50'40
山形鋼	9-19-0	—	9-13-9	173'36	—	168'86	10- 8-0	—
形鋼	—	47'936	—	—	178'13	—	—	47'04
工溝形鋼	9-10-0	—	9- 9-6	165'65	—	165'27	10- 5-0	—
鋼板	10- 0-0	—	9- 9-6	174'21	—	165'27	10-13-0	—
同 3.2mm	10- 0-0	46'816	9-10-0	174'21	174'03	115'65	10-10-6	47'04
同 2.3mm	10-15-0	—	—	187'06	—	—	—	—
同 1.6mm	12- 0-0	—	—	208'46	—	—	—	—
同 1.6mm	12-10-0	—	—	217'03	—	—	—	—
ピレツト	7- 0-0	37'500	7- 0-0	122'83	139'98	122'83	—	34'00
スラブ	—	—	—	—	139'98	—	—	34'00
シトバー	6-19-0	37'500	6-17-0	121'98	139'98	120'27	—	34'00

爲替換算率 (1 志 2 片 (英歐) 27 1/16 (米))

金利 {1.5% (英歐) 1.4% (米)} 沖取諸掛及解賃 3 圓

もので、1932~1934年の3年間に於ける輸出高總計を凌いで居る日本向輸出額は1937年に於て879,652tであつたものが、昨1938年に於ては484,879tに減じて居るが依然として米國の最大顧客である。カナダは之に次ぐ購買者で276,337tであり、英國は132,618tを以て3位を占めて居る。

銑鐵は主要輸出品で、1938年度輸出高488,851tを占めたが、同品の1937年に於ける782,438tには遙かに及んで居ない。

昨年12月の輸出總計は166,404tであつて之を11月中の總計に較べると29,752t方の減少であつた。

因に1937年12月中の輸出額306,637tに達した。

12月に於ても日本は各輸出國中の主位を占めて30,075tを購入し、カナダ之に次いで23,320tを購入した。

**東京大阪鐵鋼市場概況**

【中旬】 軍需關係の入用は決して減少してはをらない。假令入用が膨脹してはをらなくても材原料を勘定に入れると、生産方面に於ては其の重壓は増大してをるとも輕減してはをらぬやうである。

従て市場向が之れに影響されて供給難に悩むの度がおいそれと緩和されないのである。

即ち充足軍需の一部が優先的に出廻ても、之れに対する切符が復供給に輪をかけて出て来る。民需は需要、供給兩面共抑制されるのであるが、市場向が餘惠？ 御流れ？ の域を脱せぬ限りは寸法別は元より品種別に於ても到底需要は満足されず、殊に材料難が前進

すれば、製作に好悪が激しくなるので、個々の需給の窮富は益々痛感されるに至るとも當分の間は緩和されぬであらう。

鐵鋼統制協議會に於て需給の大本を睨んでをり、切符制を實施して時日も經つので、需給不均衡の部面に對する研究が積み、更に又微力なる共販組合に代つて近く強大なる鋼材の販賣會社が配給部門を統轄する事になつたのであるから、それ等各方面には大いに俟つて然るべきものがある筈であるが、現在も將復目先も需給は緩和されず、不足、不自由に過ぎざるを得ぬやうである。

昨今は値段關係は不變であるが、何れかと云へば前旬よりは多少手持が減少して、依然として需給がミートせずに移してゐる。

【下旬】 1~3の切符が大體出廻り濟みなのか、或はベース物の値下げ期が目前に迫た爲か、又は民需の抑制が事實前進してゐるのか多分夫等の事が幾分づゝ響いての結果であらう、昨今は一頃の如く不足を責められず、一頃の如く無い物ネダリで苦しめられぬやうである。

然し之れも比較上の事で、一方に於て市場向の積出しも不圓滑を極めてゐて、到底欲求に應へ難いのであるから、いざ品物が欲しいとなると、思ふ寸法は中々入手困難で、依然として窮富なる情勢を續けてゐるのは言ふを俟たない。

大勢は不變であるが、比較上は其處に幾分か一時的休養の氣配が存するやうである。

**棒鋼共同販賣組合第二部使用マーク**

半軟鋼，半硬鋼，硬鋼，最硬鋼=附スマーク

組合マーク



製鋼會社マーク

日本製鐵(富士)	日本製鐵(大阪)	日本鋼管	日本火工	日曹製鋼
富永鋼業	東京鋼材	東京製鐵	特殊製鋼	川崎造船所
内外製鋼	小倉製鋼	神戸製鋼	尼崎製鋼	宮製鋼
日本電解製鐵	東京シヤリング	大阪製鋼	吾嬬製鋼	小倉築港
東海鋼業	大和製鋼	城東製鋼	(鶴見)東京製鐵	中山製鋼
		日本製鐵(八幡)		



東京大阪市中鐵鋼相場表

	上旬 (東京大阪) 2月18日				中旬 (東京大阪) 2月18日				中旬 (東京大阪) 2月27日				中旬 (東京大阪) 2月28日			
	上旬		中旬		上旬		中旬		上旬		中旬		上旬		中旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
	<b>丸 鋼</b>															
6mm	29.00	27.20	29.00	27.20	23.10	23.60	23.40	23.40	23.10	23.10	23.10	23.10	23.10	23.10	23.10	23.10
9	23.10~23.60	23.40	23.10~23.60	23.40	21.00~24.10	23.90	21.00~24.10	23.90	22.60	22.55	22.60	22.60	22.60	22.60	22.55	22.55
12	21.00~24.10	23.90	21.00~24.10	23.90	19.90	20.20	19.90	20.20	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60
19	19.90	20.20	19.90	20.20	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60
25	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60
50	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60
65	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	27.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60	22.60
130	25.70~30.00以上	38.00	25.70~30.00以上	38.00	25.70~30.00以上	38.00	25.70~30.00以上	38.00	22.60	22.55	22.60	22.60	22.60	22.60	22.55	22.55
150	27.80~30.00以上	—	27.80~30.00以上	—	27.80~30.00以上	—	27.80~30.00以上	—	22.60	22.55	22.60	22.60	22.60	22.60	22.55	22.55
200	27.80~30.00以上	—	27.80~30.00以上	—	27.80~30.00以上	—	27.80~30.00以上	—	22.60	22.55	22.60	22.60	22.60	22.60	22.55	22.55
	<b>角 鋼</b>															
9mm	26.20	26.55	26.20	26.55	21.50~27.00	21.80	21.50~27.00	21.80	26.00	26.60	26.00	26.00	26.00	26.00	26.60	26.60
12	28.00	27.10	28.00	27.10	21.50~28.00	27.10	21.50~28.00	27.10	27.30	27.70	27.30	27.30	27.30	27.30	27.70	27.70
16	27.00	21.80	27.00	21.80	22.60~29.00	28.10	22.60~29.00	28.10	28.40	28.70	28.40	28.40	28.40	28.70	28.70	28.70
19	21.50~27.00	27.10	21.50~27.00	27.10	22.60~29.00	28.10	22.60~29.00	28.10	25.30	26.10	25.30	25.30	25.30	26.10	26.10	26.10
38	21.50~28.00	27.10	21.50~28.00	27.10	22.60~29.00	28.10	22.60~29.00	28.10	26.80	27.10	26.80	26.80	26.80	27.10	27.10	27.10
50	22.60~29.00	27.10	22.60~29.00	27.10	22.60~29.00	28.10	22.60~29.00	28.10	27.80	28.20	27.80	27.80	27.80	28.20	28.20	28.20
65	22.60~29.00	27.10	22.60~29.00	27.10	22.60~29.00	28.10	22.60~29.00	28.10	24.10	25.50	24.10	24.10	24.10	25.50	25.50	25.50
100	22.60~29.00	27.10	22.60~29.00	27.10	22.60~29.00	28.10	22.60~29.00	28.10	26.00	26.60	26.00	26.00	26.00	26.60	26.60	26.60
	<b>平 鋼</b>															
3x25	26.20	26.55	26.20	26.55	26.20	26.55	26.20	26.55	26.00	26.60	26.00	26.00	26.00	26.60	26.60	26.60
9x19	21.50	21.80	21.50	21.80	21.50	21.80	21.50	21.80	27.30	27.70	27.30	27.30	27.30	27.70	27.70	27.70
6x25	21.50	21.80	21.50	21.80	21.50	21.80	21.50	21.80	28.40	28.70	28.40	28.40	28.40	28.70	28.70	28.70
6x38	21.50	21.80	21.50	21.80	21.50	21.80	21.50	21.80	25.30	26.10	25.30	25.30	25.30	26.10	26.10	26.10
6x50	21.50	21.80	21.50	21.80	21.50	21.80	21.50	21.80	26.80	27.10	26.80	26.80	26.80	27.10	27.10	27.10
6x75	27.60	25.80	27.60	25.80	27.60	25.80	27.60	25.80	27.80	28.20	27.80	27.80	27.80	28.20	28.20	28.20
9x100	27.60	25.80	27.60	25.80	27.60	25.80	27.60	25.80	24.10	25.50	24.10	24.10	24.10	25.50	25.50	25.50
12x100	27.60	25.80	27.60	25.80	27.60	25.80	27.60	25.80	26.00	26.60	26.00	26.00	26.00	26.60	26.60	26.60
	<b>等邊山形鋼</b>															
3x20x20	31.50	29.60	31.50	29.60	31.50	29.60	31.50	29.60	26.00	26.60	26.00	26.00	26.00	26.60	26.60	26.60
3x25x25	22.00~30.00伸	28.35	22.00~30.00伸	28.35	22.00~30.00伸	28.35	22.00~30.00伸	28.35	27.30	27.70	27.30	27.30	27.30	27.70	27.70	27.70
5x40x40	20.50	21.00	20.50	21.00	20.50	21.00	20.50	21.00	28.40	28.70	28.40	28.40	28.40	28.70	28.70	28.70
6x45x45	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	25.30	26.10	25.30	25.30	25.30	26.10	26.10	26.10
6x50x50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	26.80	27.10	26.80	26.80	26.80	27.10	27.10	27.10
6x65x65	20.40	20.45	20.40	20.45	20.40	20.45	20.40	20.45	27.80	28.20	27.80	27.80	27.80	28.20	28.20	28.20
9x75x75	21.00	21.50	21.00	21.50	21.00	21.50	21.00	21.50	24.10	25.50	24.10	24.10	24.10	25.50	25.50	25.50
9x130x130	21.00	21.50	21.00	21.50	21.00	21.50	21.00	21.50	26.00	26.60	26.00	26.00	26.00	26.60	26.60	26.60
12x130x130	21.00	21.50	21.00	21.50	21.00	21.50	21.00	21.50	26.80	27.10	26.80	26.80	26.80	27.10	27.10	27.10
15x150x150	21.00	21.50	21.00	21.50	21.00	21.50	21.00	21.50	27.80	28.20	27.80	27.80	27.80	28.20	28.20	28.20
	<b>不等邊山形鋼</b>															
9x50x75	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	21.50	24.10	25.50	24.10	24.10	24.10	25.50	25.50	25.50
10x75x100	21.20	21.20	21.20	21.20	21.20	21.20	21.20	21.20	26.00	26.60	26.00	26.00	26.00	26.60	26.60	26.60
10x90x125	21.20	21.20	21.20	21.20	21.20	21.20	21.20	21.20	26.80	27.10	26.80	26.80	26.80	27.10	27.10	27.10
9x100x150	21.50	22.00	21.50	22.00	21.50	22.00	21.50	22.00	27.80	28.20	27.80	27.80	27.80	28.20	28.20	28.20
12x100x150	21.50	22.00	21.50	22.00	21.50	22.00	21.50	22.00	24.10	25.50	24.10	24.10	24.10	25.50	25.50	25.50
	<b>薄鋼板 (13枚)</b>															
川崎	1.03	1.02	1.03	1.02	1.03	1.02	1.03	1.02	26.00	26.60	26.00	26.00	26.00	26.60	26.60	26.60
八幡	1.03	1.02	1.03	1.02	1.03	1.02	1.03	1.02	27.30	27.70	27.30	27.30	27.30	27.70	27.70	27.70
	<b>ブリキ</b>															
米	170lbs	—	170lbs	—	170lbs	—	170lbs	—	28.40	28.70	28.40	28.40	28.40	28.70	28.70	28.70
英	200	—	200	—	200	—	200	—	25.30	26.10	25.30	25.30	25.30	26.10	26.10	26.10
八幡	170	38.00	170	38.00	170	38.00	170	38.00	26.80	27.10	26.80	26.80	26.80	27.10	27.10	27.10
W.W	200	39.50	200	39.50	200	39.50	200	39.50	27.80	28.20	27.80	27.80	27.80	28.20	28.20	28.20
	<b>線材</b>															
B.W.G. #5	196.00	196.00	196.00	196.00	196.00	196.00	196.00	196.00	24.10	25.50	24.10	24.10	24.10	25.50	25.50	25.50

備考 単位 100kg につき (置場値段), 但し薄板は 1枚當り, 線材は 1當り, ブリキは 1函當り.

訂正通知 前旬の丸鋼 9mm 相場 22.10 は 23.10 の誤りにつき訂正す.



昭和 14 年 2 月中發表各種鋼材建値表

(其の1)

所屬別	品 種 別	建 値 日	建 値 (t 當圓)	定 尺 (呎)	エキストラ (圓)	備 考			
棒 鋼 共 販	丸鋼	ベース(19mm~32mm)	2-6	175	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	ベース	4, 5 月積, 据置 長さのエキストラ 34 呎迄の不定尺 5 圓増 34 呎超 45 呎迄 6 圓増 45 呎超 50 呎迄 8 圓増 50 呎超 別途協議の事 2 級品の格差 小形丸鋼 3 圓落以内 中形丸鋼 10 圓落以内 小形角鋼 3 圓落以内 中形角鋼 10 圓落以内 小形平鋼 10 圓落以内 中形平鋼 10 圓落以内 中間サイズは別途協議の事 規 格 料 (日本標準規格に據る) 種 別 規格料 鐵道車輛用 (S.R. 34 50) 壓延鋼材 (S.R. 39 20, 44 60, 50 80) 構造用 (S.S.R. 34 50, S.S. 39 20) 壓延鋼材 (S.S.C. 39 20) 造船用 (S.M.R. 39 20, S.M.R. 41 50) 壓延鋼材 (S.B.R. 34 90, S.B.R. 41 60, S.B. 41 90, S.B. 44 100)		
		小形	5.5mm, 6, 8, 9	"	205	12		+30	
		12(總數量の25%以内)	"	195	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	+20			
		16	"	180	"	+5			
		36~48	"	185	"	+10			
		50~85	"	200	12, 15, 18	+25			
		中形	90, 95	"	210	"		+35	
		100	"	230	"	+55			
		大形	100超~150	"	245	"		+70	
		150超~200	"	265	"	+90			
	角鋼	小形	16mm~32mm	"	190	"	+15		
		36~48	"	200	"	+25			
		中形	50~80	"	210	"	+35		
		90~100	"	230	"	+55			
		大形	100超~150	"	245	"	+70		
		平鋼	小形 65mm以下	"	190	"	+15		
		中形 65超~130	"	200	"	+25			
		形 鋼 共 販	小形等邊山形鋼	A 3mm×20mm×20mm	2-6	210	12, 15, 18, 20	+25	4, 5 月積, 据置 長さ又は切揃のエキストラ 25 呎超 40 呎未滿 {大形 10 圓, 中形 5 圓 40 呎超 60 呎以下 {大形 15 圓, 中形 10 圓 50 呎 超 {大形 20 圓, 中形 15 圓 25 呎 未 滿 {大形 15 圓, 中形 10 圓
				B 3×25×25	"	200	"	+15	
				3×30×30	"	200	"	"	
3×40×40	"			200	"	"			
5×30×30	"			185	"	"			
5×40×40	"			185	"	"			
4×45×45	"			185	"	"			
6×40×40	"			185	"	"			
6×45×45	"			185	"	"			
小形不等邊山形鋼	A 3×40×20			"	210	"	+25		
	5×40×20		"	210	"	"			
	4×50×35		"	195	"	+10			
	6×50×35		"	195	"	"			
	等邊(50mm以上 100mm以下)		"	180	"	ベース			
	4×50×50		"	195	"	+15			
	6×50×50		"	190	"	+10			
	8×50×50		"	190	"	+10			
	不等邊(邊の和100mm以上 200mm以下但し 125×90を含む)		"	190	"	+10			
	大形		等邊(邊 100 超)	"	190	"	ベース		
200×200	"		198	"	+8				
不等邊(邊の和 200mm 超但し 125×90)を除く	"	195	"	+5					
大形溝形鋼	100mm×75mm以上	"	200	"	ベース	規 格 料 (日本標準規格に據る) 構造規格 S.S. 39 20 圓 造船規格 (S.M. 41 50, S.M. 44 60) 罐用規格 S.B. 44 100 車輛規格 (S.R. 34 50, S.R. 39 20, S.R. 44 60)			
	400×150	"	202	"	+2				
	450×175	"	203	"	+3				
	20'×7½"	"	203	"	+3				
	24×7½	"	206	"	+6				
	中形溝形鋼(高100mm超)	"	200	"	ベース				
	75mm×40mm	"	210	"	+10				
	(50mm以上100mm以下)	"	210	"	+10				

形鋼共販の 200mm 大形等邊山形鋼は從來大形不等邊山形鋼の 3 圓高なりし處今回の建値變更の結果却て 2 圓安となりたる爲 198 圓と改むる事になり共販は 4, 5 月積より問屋は 4 月賣のものより實施することとなつた。

昭和 14 年 2 月中 發表 各種 鋼材 建 値 表

(其の 2)

所屬別	品 種 別		建 値 月 日	建 値		エキ スト ラ	備 考		
				シ ヤ 及 び 問 屋 向	實 需 向				
鋼 板 共 販	耳	小形 (12mm×5'×20'以下)	6mm超 12mm以下	2-7	175		3, 4 月積, 据置 其の他のエキストラ 6mm 厚のものに付幅 5 呎超 20 圓 幅 7呎~7呎6吋迄 15圓 7呎6吋超~8呎迄 20圓 8呎超~9呎迄 25圓 9呎超~10呎迄 30圓 10呎超 40圓 厚 25mm ~35mm迄 10圓 35mm超~40mm迄 20圓 40mm超~45mm迄 30圓 45mm超~50mm 40圓 長さ 30呎以上 10圓 規 格 料 (日本標準規格に據る) S.S. 39 20 圓 S.R. 34 80 B.R. 39 20 S.R. 44 30 S.M. 41 30 S.M. 44 30 S.B. 34 90 S.B. 39 80 S.B. 41 80 S.B. 44 80		
			6mm	"	180				
	付	大形 (12mm×5'×20'超)	11mm超 25mm未滿	"	185				
			6mm超 12mm以下	"	185				
	定 尺 (3呎×6呎, 4×8,5×10)		6mm超 12mm以下	6mm	"	190			
				12mm超 25mm未滿	"	205		215	
			4.5mm	3×6	"	210		220	
				4×8	"	210		220	
			3.2mm	3×6	"	225		235	
				4×8	"	235		245	
			5×10	3×6	"	245		255	
				4×8	"	235		245	
			5×10	3×6	"	245		255	
				4×8	"	255		265	
	切 板	小形	厚板 ベース	"		220		ベース	
			6mm	"		225		+ 5	
	大形	厚板 ベース	"		230	+ 10			
		6mm	"		235	+ 15			
	薄 板 共 販	31番	3呎×6呎	(13枚入)	2-8	260			3, 4 月積, 据置 其の他のエキストラ (1) 30吋×5呎 3 圓 30×7 7 圓 30×8 8 圓 30×9 18 圓 3呎×7呎 5 圓 3×8 10 圓 (2) 其の他の特殊寸法はエキ ストラ 20 圓以内とし其の都度協 定の事 (3) 規定外寸法は近似寸法の高き 方の値段による事
				(12枚入)	"	260			
(11枚入)				"	258				
(10枚入)				"	258				
(9枚入)				"	256				
(8枚入)				"	256				
(7枚入)				"	254				
(6枚入)				"	254				
(5枚入)				"	252				
(4枚入)				"	252				
(3枚入)				"	250				
1.6mm				3呎×6呎		"	245	ベース	
					4×8	"	255	+ 10	
2mm				4×8		"	265	+ 20	
					5×10	"	240	ベース	
2.3mm	3×6		"	250	+ 10				
		4×8	"	260	+ 20				
プ リ キ 板 共 販	170lb (20''×28''×112 枚入 1 函)	石油 罐 用 銅 板 110lb (14''×18¾''×124 枚入 1 函)	石油 罐 用 天 地 板 156lb (10''×20''×225 枚入 1 函)	2-9	36'00		3 月積, 据置 定期實需家向はオイルサイズ銅板 1 函に付 43 錢 天地板 1 函に付 60 錢其の他のサイ ズ 1 函に付 75 錢増 發生品小板 (14''×20'') は各サイ ズ 各級値段に對し 30 錢引		
				"	37'50				
				"	21'50				
				"	30'00				

昭和 14 年 2 月中發表各種鋼材建値表

(其の 3)

所屬別	區分 品 種 別	建 值 日 月 日	建 值	備 考	
半 製 品	半製品 鋼塊 鋼片	半軟鋼	2-17	195	4, 5 月積, 据置 1. 鋼塊 單重 500 kg 以上, 2,000 kg 未滿 最高 20 圓 2,000 kg 以上, 3,000 kg 迄 " 35 3,000 kg を超ゆるものは別途協議の事 チップング費用は別途申受けの事 2. 鋼片 邊又は徑 75mm 未滿のもの及 180mm を超ゆるものに付ては別途協議の事
		半硬鋼	"	195	
		硬鋼	"	205	
		最硬鋼	"	215	
		半軟鋼	"	210	
		半硬鋼	"	210	
		最硬鋼	"	220	
棒 鋼 共 販 第 二 部	棒鋼	半硬鋼	2-7	245	丸鋼及角鋼 徑のエキストラ 5.5mm~6mm 50 圓 8, 9 40 11~13, 50 以上 100 迄 25 100 超 150 迄 70 150 超 200 迄 90 六角鋼のエキストラ 12mm~26mm 80 圓 29~58 50 30 圓 楕圓鋼のエキストラ 平鋼のエキストラ 厚 幅 150 圓 $\frac{1}{8}'' \times \frac{3}{8}''$ 又は $\frac{1}{2}''$ 140 $\frac{1}{8}'' \times \frac{3}{8}''$ 又は $\frac{3}{4}''$ 又は 1 180 $\frac{1}{8}'' \times 1\frac{1}{4}''-6'$ 180 $\frac{3}{16}'' \times 1\frac{1}{4}''-6'$ 70 $\frac{1}{4}'' \times \frac{3}{4}''-4'$ 30 $\frac{1}{4}'' \times 4\frac{1}{2}''-6'$ 50 $\frac{5}{16}''-1\frac{1}{4}'' \times \frac{3}{8}''-4'$ 30 $\frac{5}{16}''-1\frac{1}{4}'' \times 4\frac{1}{2}''$ 以上 50 $1\frac{1}{2}'' \times 2-4'$ 30 $1\frac{1}{2}'' \times 4\frac{1}{2}''$ 以上 50 $1\frac{1}{2}''$ 超 $\times 3$ 以上 30
		半硬鋼	"	245	
		硬鋼	"	254	
		最硬鋼	"	263	
		鍛造丸鋼及角鋼	半軟鋼	2-7	
	半硬鋼		"	500	
	硬鋼		"	535	
	最硬鋼		"	455	
	最硬鋼		"	535	
	線 材 共 販	普通線材	5.5mm	2-8	185
太番(7mm~13mm)			"	215	
熔接炭素鋼 半硬鋼 硬鋼 電 信 含 鎧		炭素鋼	"	245	
		炭素鋼	"	230	
		炭素鋼	"	240	
		炭素鋼	"	260	
		炭素鋼	"	250	
		炭素鋼	"	230	
		炭素鋼	"	220	
		炭素鋼	"	240	

昭和 14 年 2 月中 発表 各種 鋼材 建値 表

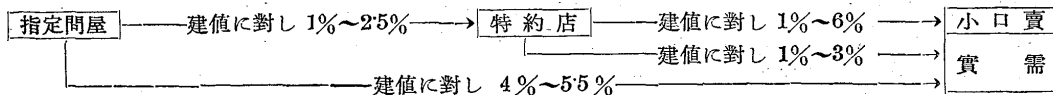
(其の 4)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 月 日	建 値	備 考		
帯 鋼 共 販	厚 0.9~1mm	幅 19~24mm	2-9	285	3 月積, 据置 但幅 171mm 以上幅 170mm をベースとして 1t に付 15 圓増のこと  エキストラ (1) 中間サイズは 5 圓増のこと (2) 厚さ 3mm 超は 5 圓増のこと		
			〃	275			
			〃	260			
			〃	270			
			〃	280			
	1.1~1.3mm	25~35	〃	265			
			〃	255			
			〃	250			
			〃	255			
			〃	260			
	1.4~2mm	19~24	〃	270			
			〃	255			
			〃	250			
			〃	245			
			〃	250			
	2.1~2.5mm	25~35	〃	255			
			〃	250			
			〃	245			
			〃	250			
			〃	255			
	2.6~3mm	36~49	〃	255			
			〃	250			
			〃	240			
			〃	245			
〃			250				
日 本 製 鐵	美 装 鋼 板	{ 1.6mm } # 18	白鳩印	2-25	問屋向 263 278	實需向 276 292	3, 4 月積, 据置
	縞 鋼 板	{ 4.5mm } 60			255 (標準 値段)		10 圓上げ 全部實需向なり
	珪 素 鋼 板	B C D T T S	級 級 級 級 級	2-15	310	据 置	
				〃	340	〃	
				〃	375	〃	
				〃	455	〃	
	ス コ ッ プ 用 鋼 板	{ 1.8mm x 3' x 6' } { 1.85 x 3 x 6 }		2-21	問屋向 270	實需向 285	4' x 8' のエキストラは 10 圓
				〃			
	重 軌	軌 條 (繼目板共)	軌 條	7-5	210	据 置	
				9-20	210	〃	
鋼 矢 板			12-5-25	205	指定河岸渡 t 當り値段なり		

註 上掲の諸共販組建値に對する指定問屋及特約店の口錢並びに建値の實施方法は下の如くである。

[I] 棒鋼, 形鋼, 鋼板共同販賣組合の指定問屋及特約店の口錢に關する取極は下記の通り。

(1) 指定問屋及特約店の口錢。



(2) 本口錢は總て共販建値を基準として徴するものである。

(3) 小口賣と云ふは大體に於て 1 日 1t 以内契約のものを云ふ。

(4) 當分の間指定問屋は所定口錢の外臨時口錢として 1t 金 4 圓以内を加算し販賣することを得。

(5) 特約店は指定問屋が所定口錢及び臨時口錢を加算したる値段に特約店の所定口錢と更に臨時口錢として 1t 金 4 圓以内を加算し販賣することを得。

(6) 右指定問屋及特約店の賣値は自家店舗又は置場渡の値段で, 其以後の配給に要する運賃は實費のみを請求し得。

[II] 半製品第 2 部棒鋼 (第 2 部を含む) 形鋼及び鋼板の新建値實施方法は下記の通り。

(1) 市販品に對しては

(イ) 12 月賣出のものより新建値に據る。

(ロ) 11 月末日迄の賣出品中 14 年 1 月 31 日迄に積出すものは既契約値段により 2 月 1 日以降に積出すものは新建値に據る。

(ハ) 14 年 2 月末日迄の販賣値段は舊建値を基準とし 3 月 1 日より全面的に新建値を基準として販賣するものとす。

(2) 實需向に對しては棒鋼形鋼鋼板 14 年 1 月引受のものより新建値に據り既契約は其儘とす。